

『《標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野》解剖学 第6版』正誤表

このたびは『《標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野》解剖学 第6版』をご購入いただきまして誠にありがとうございます。
本書（2024年12月1日発行）におきまして以下の誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

2025年12月19日作成

| 刷数 | 訂正箇所 | 誤 | 正 | 掲載 |
|-----|------------------------------|--|---|------------|
| 1 | 24頁・図1-18 胚子期の形態形成 | | (図にスケールバーを追加) | 2025/12/19 |
| 1 | 25頁・「■月経年齢と受精年齢」 | 出産予定日の表現法には月経年齢と受精年齢の2通りがある。月経年齢では最終月経開始日を妊娠0日として、40週＝280日と定める。一方、受精年齢では一般に最終月経開始日後2週間目に排卵されることから月経年齢から2週間を差し引いた日数、すなわち40週－2週＝38週（266日）と定めている。 | ヒトでは受精から出生まで平均38週（266日）を要する。排卵は一般に月経開始日の2週間後に起こる。胎児の日齢や週数の計算方法には、月経年齢と受精年齢の2通りがある。通常の妊娠ではいつ受精が起きたかはわからないので受精日と排卵日を同日とみなし、臨床では月経年齢を用い、出産予定日を最終月経開始日から起算して40週（280日）と定めている。生殖補助医療（体外受精・胚移植など）が関与した場合など受精日が確実にわかる場合もあり、その際は（月経年齢に換算すると）受精日を2週0日として扱う。受精年齢は受精日（＝排卵日）を起点として日齢や週数を計算する方法で、主に発生学で使われている。この場合、出産予定日は受精日から38週（266日）として求められ、月経年齢による計算と同じ期日になる。 | 2025/12/19 |
| 1 | 179頁・「4 腹部の筋」12～14行目 | 前腹筋群と側腹筋群は肋間神経（下部は腰神経叢の枝）、後腹筋は腰神経叢の枝、骨盤の筋は仙骨神経叢の枝によって支配される。 | 前腹筋群と側腹筋群は主に肋間神経（下部は腰神経叢の枝）、後腹筋は腰神経叢の枝、骨盤の筋は仙骨神経叢の枝によってそれぞれ支配される。 | 2025/12/19 |
| 1 | 181頁・表4-11 腹部の筋（主なもの6筋） | <ul style="list-style-type: none"> ・1.腹直筋の「神経」 肋間神経、<u>腸骨下腹神経(T6)</u>、T7～T12、<u>(L1)</u> ・2.錐体筋の「神経」 肋下神経、<u>腸骨下腹神経</u>、T12、<u>L1、(L2)</u> ・3.外腹斜筋の「神経」 肋間神経、<u>腸骨下腹神経T5～L1</u> ・4.内腹斜筋の「神経」 肋間神経、腸骨下腹神経、腸骨鼠径神経<u>T10～L1、(L2)</u> ・5.腹横筋の「神経」 肋間神経、腸骨下腹神経、腸骨鼠径神経、<u>陰部大腿神経T5～L2</u> | <ul style="list-style-type: none"> ・1.腹直筋の「神経」 肋間神経、<u>肋下神経</u>、T7～T12 ・2.錐体筋の「神経」 肋下神経、T12 ・3.外腹斜筋の「神経」 肋間神経、<u>肋下神経T7～T12</u> ・4.内腹斜筋の「神経」 肋間神経、<u>肋下神経</u>、腸骨下腹神経、腸骨鼠径神経T7～L1 ・5.腹横筋の「神経」 肋間神経、<u>肋下神経</u>、腸骨下腹神経、腸骨鼠径神経、T7～L1 | 2025/12/19 |
| 1～2 | 285頁・図5-83 猿手 |  | イラストの差し替え  | 2025/12/19 |
| 1 | 288頁・「a腰神経叢の枝(1)腸骨下腹神経」7～8行目 | 腸骨下腹神経は、腹直筋、 <u>錐体筋</u> 、 <u>腹横筋</u> 、 <u>内腹斜筋</u> 、 <u>外腹斜筋</u> に筋枝を出す。 | 腸骨下腹神経は、腹直筋と内腹斜筋に筋枝を出す。 | 2025/12/19 |
| 1 | 288頁・「a腰神経叢の枝(3)陰部大腿神経」1～2行目 | 細い神経で、大腰筋を貫いたのちに <u>腹横筋に筋枝を送り</u> 、大腰筋の前面を下走して | 細い神経で、大腰筋を貫いたのちに大腰筋の前面を下走して | 2025/12/19 |
| 1 | 391頁・右段・上から9行目 | 近位曲尿細管、ヘンルループ（直尿細管）、遠位曲尿細管の <u>3部</u> に分けられる。 | 近位曲尿細管、ヘンルループ（直尿細管）、遠位曲尿細管、 <u>集合管の4部</u> に分けられる。 | 2025/12/19 |
| 1 | 391頁・右段・上から13行目 | ここで緻密斑を形成する。 <u>(4) 集合管 (collecting tubule)</u> 尿細管の末端は、腎錐体を縦走する集合管に続く。 | ここで緻密斑を形成する。 <u>遠位曲尿細管の末端は</u> 、腎錐体を縦走する集合管に続く。 | 2025/12/19 |
| 1～2 | 398頁・左段・上から6行目 | 前立腺は膀胱の <u>前部</u> にある栗の実状の腺である。 | 前立腺は膀胱の <u>直下</u> にある栗の実状の腺である。 | 2025/12/19 |